



少年育成センターだより

令和6年12月16日

第31号

坂出市少年育成センター

坂出市久米町1-18-20

TEL 46-2777

FAX 46-7140

信頼できる「なかま」と相談する「勇氣」を

坂出市少年育成センター 所長 勝浦隆史

平素より、青少年の非行防止や健全育成活動及び少年育成センターに対するご理解とご協力をいただいておりますことに心からお礼申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行しました。今年度からは、多くの学校で普段通りの行事や活動が実施され、子どもたちにとっては充実した学校生活を満喫されていることと思います。しかし、「厚生労働省人口動態統計」によりすると、昨年5月からの1年間に県内で新型コロナウイルスへの感染が原因で亡くなった人数は279人、比べて同時期に同じく5類の季節性インフルエンザで亡くなった人数が18人と聞いて、驚きました。コロナ感染症に関してはまだまだ安心できません。今でも心の不調を抱えている子どもも少なくないようです。やはり周囲の大人が子どもの様子の変化に早く気づき、話をよく聞いて、温かく寄り添っていくことが大切でしょう。

さて、10月に公表された2023年度の香川県小児生活習慣病予防検診と合わせて実施した児童生徒の生活習慣アンケートによりすると、ゲーム機やスマートフォン利用時間を「1日2時間以上」とした児童生徒の割合が調査したすべての学年で増え、中学1年男子は初めて7割に達したということです。合わせてこの頃世間を騒がせていたのが、関東を中心に各地で起こった闇バイトをきっかけとする強盗事件です。SNS上で「簡単な仕

事で高額のバイトあり」という甘い文句の誘いに乗り、犯罪に手を染めた若者が多くいました。

どうしてこのようなことになってしまったのでしょうか。個人の情報を握られ脅されていたとはいえ、若者自身の判断の甘さが指摘されています。SNSの利用に関しては、幼いころからの家庭でのルールづくりや利用モラルの徹底がまずは必要だと感じます。オンラインゲームでは、SNSを子どもが利用しないよう年齢制限を設ける方針を明らかにしたり、アメリカのメタ社は、インスタグラムで18歳未満の利用を制限する新機能を発表したなどの、規制に向けた動きが世界的に広がっています。今の子どもたちには、ゲームやスマートフォン以外に夢中になれるものを、今の自分を振り返り将来の自分の姿を思い描ける想像力を、そして何より困った時に親身になって応えてくれる「なかま」と相談する「勇氣」をもってほしいと強く願います。

最後になりましたが、今回の作品募集には、たくさんの方が寄せられました。学校での健全育成への呼びかけとともに、熱心に作品作りに取り組んでくださった児童生徒の皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございます。そのうちの優秀作品を掲載しましたので、ご覧いただければ幸いです。

今後とも、将来の坂出市を担う青少年の成長を温かく見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

優秀作品の展示



坂出市役所 市民ロビー

令和6年11月5日～11月8日 小学校の部

令和6年11月11日～11月14日 中学校・高校の部

	ポスター			標語			作文			合計
	応募	特選	入選	応募	特選	入選	応募	特選	入選	
小学校	87	6	18	204	9	20	55	3	9	346
中学校	41	3	9	72	3	8	37	2	6	150
高校	6	1	1	42	2	4	0	0	0	48
合計	134	10	28	318	14	32	92	5	15	544

応募総数・入賞者数

青少年の健全育成作文・特選作品

「全国スポーツ少年団 交流大会に出場して」

東部小六年 吉田 瑛音

ぼくは、全国スポーツ少年団大会の四国大会を優勝し、全国スポーツ少年団交流大会に出場しました。全国から鳥取県に十六チームが集まり、各地のチームと交流したり、優勝めざして野球の試合をしたりしました。

八月の暑い中だったので暑さ指数が三十一度以上になった場合は、試合を打ち切るというルールの中、試合は行われました。ぼくたちのチームは一回戦、同点で暑さ指数が三十一度を超えてしまい、試合は打ち切られました。準決勝は試合を最後まですることができ、勝ち残りしました。ドキドキしながらむかえた決勝戦。朝からの試合で、時間通り試合を開始することができました。

ところが、だんだんと太陽が昇ってきて、どんどん汗が流れてきました。同点のまま緊迫した試合の中、まさかの逆転をされてしまいました。そして運悪くその回終了後の暑さ指数は三十二度。もう終了です。ぼくはくやしくて涙が出そうになりました。その時、その時点で終了なら勝っている相手チームの監とくが、「この

まま三回で試合終了するのは、相手も自分の子ども達も納得できないのではないのでしょうか。最後まで試合をさせてあげたいです。」と本部に言ってくれたのです。その言葉を聞いた本部の人は、少し時間を待ってくれ、グラウンドに水を、たくさんまいてくれました。そしてそのおかげで指数が下がり、続けて試合をする事ができたのです。そしてぼくたちは、精一杯自分の力を出さなければいけないと強く思い、試合をし、逆転することができたのです。あのまま終了していたら、負けていたけれど相手チームの監とくの言葉があったからぼくたちは優勝することができました。

この大会を経験して、ぼくが相手チームの監とくだったらどうするのだろうと考えました。ぼくは友達や家族と遊んでいるとき、勝った事を必要以上に喜んだり、相手のエラーをバカにする発言をしたりしていたことを思い出しました。ぼくはうれしくて何気なくその言葉を言ってしまった。負けていて涙が出そうなくらいくやしい気持ちでいた友達がいなかもしれません。ぼくがこの大会でそうだったように。その時に、「あと一回、やってみる？」と声をかけてあげられるような人になりたいと、この試合を通して思い

ました。相手の立場に立つて考えることの大切さを学ぶことができました。その事をみんなができるようになる、この世界からいじめや差別がなくなると思います。みんなが相手の立場に立ち、思いやりの心をもつと心が温まり、幸せな日々を過ごすことができると思います。ぼくはこの経験を忘れないようにしたいと思います。

「ぼくのボランティア 活動の始まり」

川津小三年 石井 奏多

ぼくは、一年の時から、朝早く登校していました。どうしてかという、おじいちゃんが道のあぶない所の立ち番をして、はたを持って見守りをしているからです。いっしょに行っていると早く着くので、学校のにわのゴミをほうきで集めていました。すすきのような草や、短くて根のはっている草もぬきました。

だんだん早く来た友達も、ぼくがやっているのを見ると、少しずつ、いっしょにやる人がふえてきました。これが、学校みんながボランティアをする、きっかけになったんだよと、後で、先生が教えてくれました。二年の終わりには、「一年の時から

進んで、ボランティア活動にさんかし、学校美化に努めている。」と表しようされ、「えっ」と、びっくりしました。

ぼくは、小さい時から、おばあちゃんの手をのまねをして、台所のゆかをふいて遊んでいました。ろうかも、ぞうきんがけで走ってねえちゃんときょうそうして、楽しんで、やっていた。

風がふいた日にはおち葉をかき集め、ほうきではいて山へすてに行っていました。おばあちゃんが外に出てきて、「どうしたの。二人でそうじしてくれていたんな。ありがとう。」と、言ってほめてくれました。

山の畑の草ぬきをして、バケツいっぱいぬいておばあちゃんに見せると、「ありがとう。たすかるわ。こんな広い所、おばあちゃん一人するのはむ理やわ。」と、おこづかいをくれました。「おかねはいらん。いらん。おばあちゃんがたいへんやから。お手伝いしただけや。」と、言っても百円ずつくれました。

草ぬきや、はきそうじ、ぞうきんがけも、小さい時からやっていたのです。ぼくの、学校でのそうじは、すきな遊びの一つだったので。一人でするより、友達たくさんですると、いろいろな話をしながらできて楽しいし、きれいになるのも

早くなります。一人の小さな手も、たくさん友達と手を合わせれば、だんだん大きく広がって行くんだと、わかりました。

これからも、みんなでつづけて、学校をきれいにしていきたいと思えます。

青少年の健全育成作文・特選作品

「たよりになる」

兄ちゃんになるぞ

林田小四年 三村 奏太

「おなかに赤ちゃんができた。」と聞いた時、ぼくは、とてもうれしかった。そのころお母さんは、よくねていたから、病気かと思っていた。後から、あれはつわりと言うものだと教えてもらった。ずっと気持ちわるいと聞いて、びっくりした。

ある日お母さんが、「赤ちゃんの心ぞうの音聞いてみない?」と言った。おなかの下の方に、ちょうしんきのようなものをあてると、トクトクトクと音が聞こえた。家族みんなで、「おーすごい。」とよろこんだ。自分たちの心ぞうの音も聞いてみた。お母さんは心ぞうが二つあるなんて、すごい強だと思った。

どんどんお母さんのおなかがあふくんだ。出かけるじゅんぴをしていた時、お母さんが、「くつ下、はかせ

てくれない?」と言った。「えー今むり。」と言って、二階にゲームをとりに行った。一階に下りてきた時に、お母さんはまだくつ下をはけていなかった。くつ下くらい自分ではいてよと思っていけれど、おなかが大きいとむずかしくなるんだ。やってあげたらよかったなと思った。

お母さんのおなかはおつとふくらんで、パンパンになった。そんな時に東京に行く用事ができた。本当はお父さんとぼくで行く予定だったけれど、お父さんは仕事になって、お母さんと二人で行くことになった。東京に行った後で、ぼくは手じゅつすることになった。たまたまできた用事だけど、せっかく行くなら、手じゅつの前に楽しませてあげたいとお父さんとお母さんが話していた。お母さんは、大きいおなかで東京に行くのは不安だと思うけれど、ぼくのために行こうと言ってくれたと思う。だからぼくがぜったいにがんばるんだ、という気持ちだった。

出ばつする日にお父さんが、「そうた、たのむな。」と言った。たよりにされてうれしかった。重い荷物はおくが持つて、ゆつくり歩くお母さんのペースに合わせた。駅では、お母さんがすわるころがないからイスをゆずった。かいだんでお母さんが転ばないように気をつけた。やっと、

新かん線に乗れた時は、ホッとした。お母さんは、「ありがとう。」と何回も言っていた。新かん線の中で二人で駅弁を食べた。とてもおいしかった。

赤ちゃんができるということは、とてもうれしいけれど、お母さんはとても大変なことを知った。めんどくさいとか、だれかやってくれると思って、家のことは、ほとんどしなかったけど、本気でぼくも出来ることをしなきゃいけないと思った。それに、「ありがとう」と言われるのはとてもうれしかった。赤ちゃんが生まれてお母さんがこまっていたら、ぼくがぜったいに助けてあげようと思にちかった。たよりになるお兄ちゃんになるぞと思った。

青少年の健全育成作文・特選作品

「ボランティア活動」

白峰中一年 谷本 望乃

みなさんは、ボランティアをしたことはありますか。ボランティア活動とは、誰もが人間らしく豊かに暮らせる社会になるよう、身近なところで、できることを自らすすんで行う活動のことです。ボランティアといえば、募金活動や清掃活動などを思い浮かべると思います。例えば、

買い物に行くとき、エコバックをもっていくと、レジ袋の使用量を抑えることができ、レジ袋の製造時、廃棄時に発生する二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を削減することができます。このように身近にできることがあるので、誰でもできると思います。

ところが、文部科学省の調査では、ボランティアに定期的に参加している日本人の割合は、九・二%です。それに比べ、欧米では二十六・二十七%の人が参加しています。どうしてこんなに日本と欧米で差があるのでしょうか。

調べてみると、日本では、ボランティアを困っている人を助けることが定義されがちですが、海外のボランティアでは、自分の得意なことを活かして、誰かのために活動する。日本とは、ボランティア事例の意味合いが違うようです。

では、次に私のよかったなと思ったボランティアを二つ紹介します。

まず、一つ目は私の通った小学校では年賀状やお金をもってきて寄付する活動がありました。私も家にあった年賀状とお金をもっていきました。全校生のたくさんの方が協力して集めたので、たくさんのお金が寄付されました。また、学校や地域などで、寄付をする活動があったら、

募金したいです。

二つ目は清掃活動についてです。私の父は、去年と今年の二回坂出市王越町で海岸清掃活動の主催者として、ボランティア活動を行いました。「ブルーサンタ」と呼ばれる、全国一斉に開催される海岸清掃活動の香川県会場の一つとして王越町で清掃活動が行われました。去年行ったときは、大量のゴミが広がっていて、大きな発泡スチロールの浮き玉が五十個ほど、他にもタイヤまでありました。ゴミ拾いが終わったら、バーベキューなどをして、楽しんでいました。この清掃活動におよそ百五十人が参加しました。

こうしたボランティア活動をもっと日本に広めて、多くの人に積極的に参加してほしいです。

青少年の健全育成作文・特選作品

「今ある家族との時間」

東部中二年 塩崎 空音

今年の正月、家族みんなでテレビを見ていたら突然「逃げて」という言葉と同時にすごい音が鳴り、楽しかった時間が一瞬で恐怖に変わったのを今でも覚えています。能登半島で起きた地震です。それから毎日テレビはこのニュースばかりになりま

した。たくさんの人が家や家族をなくし、今まで通りの生活ができず、笑顔が消えていくのを見て僕はとても悲しくなりました。なかには学校に行けず、家族と離れて遠くの学校に行っている人達もいました。僕が今家族と過ごしている時間は当たり前ではなく、とても幸せなことだと思うし、続くものではないんだということを考えるきっかけとなりました。

僕の家族は父と母、兄と姉の五人家族です。僕はいつもリビングに集まり、一緒にご飯を食べたり、テレビを見たり、勉強したりしていました。誰かが話したすと自然とみんなが加わり、会話がはずんで笑顔いっぱいになります。時には言い合いになつてケンカしてしまったり、怒られて静まりかえったりする時もあるけれど、みんなで話し合って解決し、気づくとまたにぎやかな部屋に戻っています。僕達家族にとってリビングはとても大切な場所です。しかし、僕が中学生になり部活が始まると、学校でいる時間のほうが増え、家族との時間がだんだん減っていきました。家に帰っても勉強や自分のやりたいことをしているとあっという間に一日が終わってしまします。一日ってこんなに早かったのかと最近強く思うようになりました。唯一家族みんながそろうのがご飯の時間で

す。僕の家ではご飯はみんなで食べるようにしています。その時に今日あったことを言い合ったり、何気ない話をしたりして盛り上がり、みんなが笑顔になります。どんなに一日疲れていてもみんなと話をすると疲れが吹き飛んでいき、明日も頑張ろうと思えます。家族ってすごいし、僕の元気の源です。これから五人そろっての時間も減ってくると思いますが、少しでもみんなで笑い合える時間が作れたらいいなと僕は思います。僕の住んでいる地域にもいつか大きな地震がくると言われています。家族がいなくなるなんて考えたくないけれど、どこかで地震が起これるととても不安になる時があります。大切な人がいなくなつてからは、言いたいことも言えないし、あの時こうしておけばと後悔してもどうにもなりません。今ある生活や大切な人と過ごせる時間は当たり前だと思わず、一日一日を大切に過ごしていかなければならないと改めて思いました。そして、家族との時間を少しでも作れるよう、小さい頃から続いているお手伝いもしっかりしていきたいです。これからずっと、みんなの笑顔が続くように家族との時間を大切にしていきたいです。

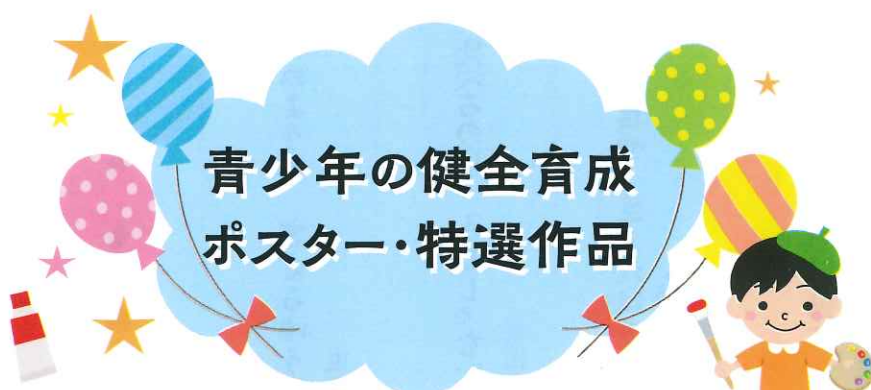
作文の部 入選者

川邊	礼仁	(松山小一年)
相坂	里緒	(東部小二年)
泉	陽斗	(川津小二年)
池田	寧紀	(松山小三年)
辻村	咲	(附坂小三年)
来田	真奈	(加茂小四年)
大林	璃沙	(川津小五年)
高橋	和栞	(松山小五年)
猪熊	雅	(附坂小六年)
山地	樹	(坂出中一年)
東條	水南	(附坂中一年)
山津	陽向	(白峰中二年)
三谷	愛奈	(坂出中三年)
前田	佳穂	(東部中三年)
宮川	海翔	(附坂中三年)





坂出小3年 川田 美生



府中小6年 安江 舞泉



金山小6年 井上 千彩



松山小5年 大藪 ゆずは



坂出中3年 市原 亜季



附属坂出小6年 木谷 悠人



附属坂出小6年 宇田 彩乃



坂出商業高1年 道下 小仁音



附属坂出中2年 辰巳 諒



附属坂出中1年 横井 雅哉



青少年の健全育成 標語・特選作品

みんなでね やさしくしたい まずはぼく

西庄小二年 川田 仁誓

あいさつは 心にまっすぐ とどけたい

林田小三年 野村 豪

ゲームより もっと楽しい 家族の会話

附坂小三年 阿江 隼佑

やめようと 言えるゆうきを みんなでね

東部小四年 丸本 珠璃

比べるのは 人じゃないよ 昨日の自分

松山小五年 富木田 花音

見た目や 生まれはきにならない

みんなちがってみんなよい

附坂小五年 金崎 結星

その言葉 その行動に 責任を

東部小六年 三木 紗幸

甘い言葉で 未来ある心身を 失わない!

加茂小六年 澤田 零

とめなくちゃ 見ているあなたも いじめ役

附坂小六年 猪熊 雅

「それいいね」 笑顔になれる 魔法の言葉

東部中一年 櫻井 優歩

家族との 会話を増やす 笑顔が増える

白峰中一年 山下 葵衣

あいさつで 心の音色 奏でよう

坂出中三年 二場 心美

薬物で 心の穴は 埋まらない

坂工高一年 泉 陽

すこしでも さらっと一言 ありがとう

坂一高一年 山下 寛喜

ポスターの部 入選者

標語の部 入選者

水口 明音(加茂小三年)	猪熊 渚月(東部小一年)
山西舞梨恵(加茂小三年)	澤井 悠佑(川津小一年)
横井 爽菜(東部小四年)	廣瀬 詠(東部小二年)
松永 梨暖(坂出小五年)	渡辺 寛人(金山小二年)
三木ちなみ(坂出小五年)	乙武 快杜(松山小二年)
長尾 柚杏(東部小五年)	川田 碧唯(金山小四年)
松井 梨紗(金山小五年)	大野 寛太(林田小四年)
大西 咲萌(林田小五年)	本條恋夕月(川津小四年)
野村 駿(林田小五年)	塩田 芽生(坂出小五年)
池田 舜太(川津小五年)	野村 駿(林田小五年)
佐古 隼人(東部小六年)	豊嶋 恭(林田小五年)
三木 紗幸(東部小六年)	吉村 遥(府中小五年)
松野 惺也(林田小六年)	野保 倅音(川津小五年)
澤田 零(加茂小六年)	田中 愛華(附坂小五年)
山下 瑛石(府中小六年)	澤田 蓮(加茂小五年)
中井 稟彩(川津小六年)	平田 莉愛(西庄小六年)
西尾 颯真(松山小六年)	惣田 玖磨(西庄小六年)
松川 翠把(附坂小六年)	林 弥音花(林田小六年)
谷本 瑞樹(東部中一年)	市原 珀(林田小六年)
三木 柚菜(東部中一年)	安江 舞泉(府中小六年)
出田 真晟(坂出中二年)	小島 凜花(坂出中一年)
奈尾 花音(東部中二年)	山本 峰桜(坂出中一年)
朝倉 茉央(東部中二年)	渡邊 瑛斗(坂出中二年)
高木 悠花(附坂中二年)	佐古 拓海(東部中二年)
津島 尚久(坂出中三年)	大野 瑞稀(東部中二年)
直井 朝陽(坂出中三年)	丸橋 美月(白峰中二年)
伊藤 颯真(附坂中三年)	西尾 颯夏(白峰中二年)
末吉 飛羽(坂工高一年)	東田 旺典(坂出中三年)
	矢野帆乃香(坂商高一年)
	大谷 里桜(坂商高一年)
	藤保 花蓮(坂商高一年)
	森 栗那(坂一高一年)

